

——江戸の四季と男女の機微——

は う た 「端唄公演会」

敬文舎「伝統文化」シリーズ 第4弾！

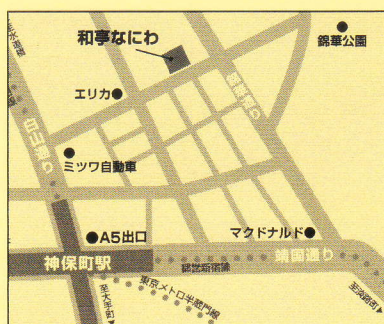
- 出演 青柳 葵（絃） 葵美佐 葵秀（囃物） 望月太左博巳
- 日時 2015年12月5日（土）
午後3時～午後4時30分
- 木戸銭 3,000円（舎人倶楽部会員：2,500円）
- 定員 25名（申し込み順）
- 会場 和亭なにわ 地下（地図参照）



千代田区神田神保町1-34
☎03-3295-9358

【アクセス】

東京メトロ半蔵門線
都営新宿線・都営三田線
「神保町駅」
いずれも A5出口より徒歩5分



端唄とは

日本音楽の種目名。江戸時代に発達した歌曲の一種。本来は、特定の種目を構成するにいたらない流行歌曲の一般名称であったが、とくに幕末に、江戸において端唄連と呼ばれる同好者の集団を中心に流行した三味線伴奏の短い歌曲をいい、のちに成立するうた沢、小唄の母体となった。

●お申し込み・お問い合わせ

入場ご希望の方は、①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 ④参加人数を、電話、FAX またはメールで、敬文舎または「和亭なにわ」までお申し込みください。



株式会社 敬文舎 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3丁目3-23 ファミール西新宿 405
TEL：03-6302-0699 FAX：03-6302-0698
E-mail：keibun-sha@aria.ocn.ne.jp ホームページ：http://k-bun.co.jp



青柳 葵（青柳流家元）

東洋大学卒業後、新聞社勤務を経て、小唄・端唄に転向し、根岸流に存籍。芸暦48年、師籍41年、江戸ロマンと端唄文化の振興を次世代に伝承することを目的に青柳流を開基。男性家元の貴重な存在として専門家筋からも期待を寄せられている。

芸風は、「遊びごころ」「楽しさ」を本性とし、庶民的に気取りなく、人間味のある温かい芸をモットーに、日本人の感性の「和風」を大切に、社会貢献することを心情としている。ボランティア活動や演奏会、テレビ出演など多数。